

天子山塊の地質

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 智雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005946

天子山塊の地質

加藤 智雄

昭和29年度卒業論文として天子山塊の地質を研究したのでここにその要約を発表する。

本調査区域は富士火山と富士川に被まれる天子山脈の天子ヶ岳を中心とする地域である。調査期間は1954年3月～1954年12月にわたり延40日の踏査を行った。

天子山脈は壯年期の地形を示し峻鋒であり、河谷も壯年期又は幼年期を示し、この地域の地質構造と一致した走向谷をなすものが多い。天子山脈東麓は富士火山噴出物に覆され、天子山脈の急崖とゆるやかな裾野とは著しい対照をなしている。

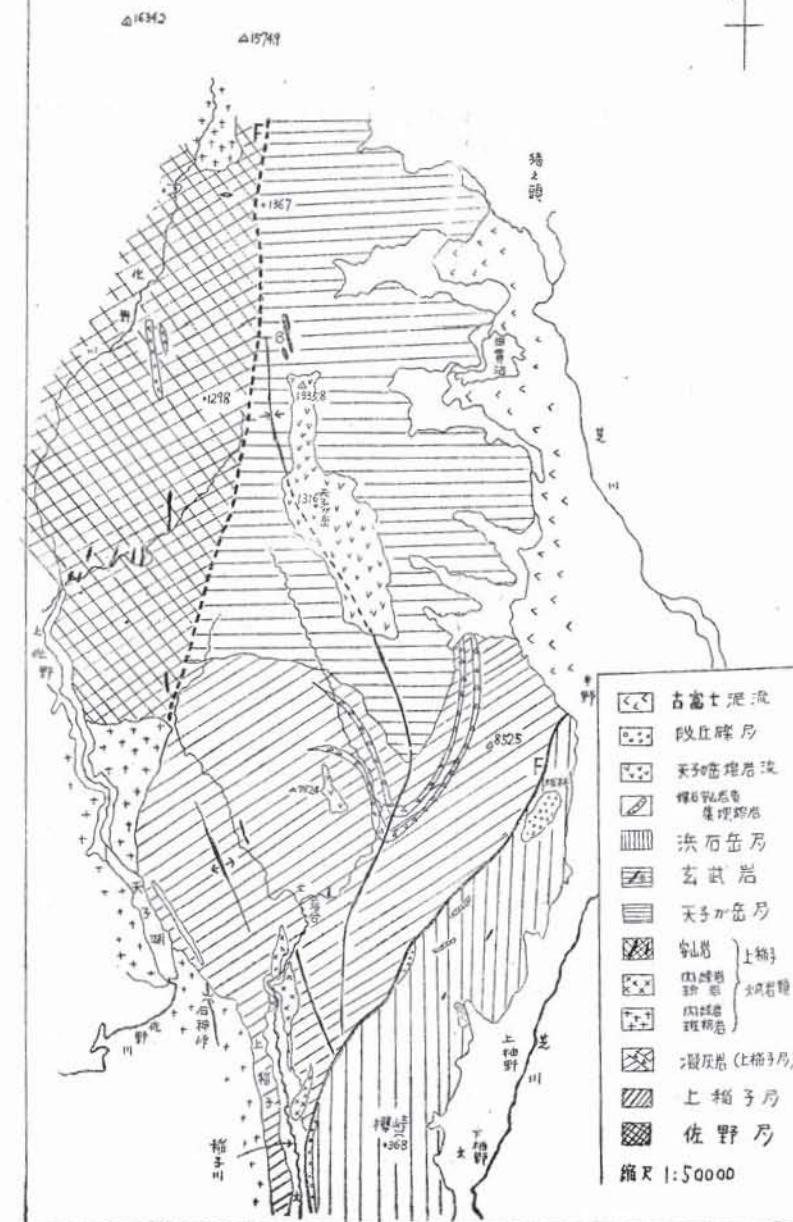
本地域の地質はフォッサマグナ地向斜帯の特性を示す新第三紀の厚い堆積物より構成されている。筆者はこれを下位より佐野層(Sano Formation), 上稻子層(Kami-imako Formation), 天子ヶ岳層(Tenshigatake Formation)に分けた。上の上部には洗石岳層が現れ、更に東方は富士火山噴出物によって覆われている。又各層に貫入岩体が見られる他、天子ヶ岳を中心とし鮮新世末の噴出と思われる熔岩流が存在する。

佐野層は佐野川上流、上佐野以北より佐野川源流に分布し、ほぼNE～NNEの走向、50°～70°Eの急傾斜で準斜構造をなしている。下部よりシルト岩層、礫岩層、礫岩砂岩層、砂岩シルト岩互層、礫岩砂岩層に区分でき、上部は推定断層で天子ヶ岳層と接し、下部の境界を明らかでないが1300m以上の厚さを有する。上稻子層とも推定断層で接し、その上下関係は充分明かでないが上稻子層より下位の堆積物と推定される。

上稻子層は上稻子附近に分布し下部より森シルト岩層、門野シルト岩互層、落合礫岩砂岩層、入山砂岩シルト岩互層に分かれ、落合礫岩砂岩層、入山砂岩シルト岩互層中には著しく凝灰質な部分がある。

佐野層、上稻子層中の貫入岩体を筆者は一括して上稻子火成岩類と名付けた。本岩類は岩柱状、岩脈、岩床として現れ、肉綠岩、石英肉綠岩、斑柄岩、肉綠玢岩、玢岩、石英安山岩、安山岩よりなり、上稻子層堆積以後、天子ヶ岳層の堆積以前に貫入したものと推定される。本岩類のマグマは著しい汚染作用を受けたものであり、更に貫入後多少の変質を受けている。

天子山塊地質略図



天子ヶ岳層は天子ヶ岳附近より天子山脈のほぼ東腹に分布し、下部より砾岩互層、砂岩質互層、砂岩シルト岩互層よりなる。

天子ヶ岳山麓の熔岩流は天子ヶ岳層を破いて新世木の噴出と推定せられ、これを天子ヶ岳溶岩流と名付ける。この熔岩流は最大厚300mにも達する複雑な山岩で下部では上に飛行火成岩類を捕獲岩として多く含んでいる。

上稻子層及び天子ヶ岳層は向斜褶曲構造と背斜褶曲構造により支配され、向斜軸は稻子川東岸に沿ってゆるく屈曲しながら天子山脈の△1335.8mの西を通過し北に進む。西方では北に沈み、北方ではゆるく南に沈む船室型構造をなす。褶曲の東側は天子ヶ岳層と逆断層で接している。背斜軸は稻子川西側、内野附近をほぼ北に進び北に沈む。

上稻子層と鴻石岳層を境する逆断層は、稻子小学校附近よりNNE～NEに延び坂林を経て半野南方に至っている。この逆断層と富士火山噴出物に挟まれた地域は鴻石岳層が分布し礫岩を主とするが僅かに砂岩シルト岩互層を挟み、砾岩の基質は通常死貝である。本層は輝石安山岩集塊岩を挟み、これはシルト岩の巨礫を含むことが多い。この他本層を貫く所内安山岩の岩脈も僅かに見られる。

第四紀の段丘疊層は茨川西岸の坂林、上柏野西方及び他の主要河川の沿岸に見られ、初林のものは亞角礫の大礫及び巨礫により構成される。

佐野層、上稻子層、天子ヶ岳層はいずれも化石に乏しく化石による時代決定は困難であったが、稻子川河岸段丘中の転石より *Lepidocyclina* sp., *Miogypsina* sp., *Amphistegina* sp., *Gigelina* sp., を含む泥灰岩塊を見出した。これと類似する岩相が上稻子層中に認められたのでこの転石を上稻子層起源のものとするならば、上稻子層は中新世中期の堆積と推定できる。又本地域における火成岩類は丹沢山地、伊豆半島の中新世活動と類似し、上稻子層を中新世中期としても矛盾を生じない。